

1 子ども・子育て孫育て支援

POINT 1 給食費無償化の実施・医療費無償化

小学生の給食費の完全無償化を実現します。医療費の無償化を高校生まで拡充します。

POINT 2 安全安心な子育ての場所づくり

新たな子育てスポットとして人気のゆんラボ・未来館は、朝10時から夜22時まで様々な形で子どもや孫と楽しい時間を共有できる場所として喜ばれています。このゆんラボ・未来館のサービスの拡充（例えば託児機能）や施設の拡張、または第2のゆんラボ・未来館の設置なども含め、安全安心な子育ての場所の拡充について、民間ノウハウも取り入れながら柔軟に検討していきます

POINT 3 子どもの居場所づくり（教育）

ゆんラボ・未来館には日々多くの子どもたちが集まっています。大人の目が届く安全安心な場所で、子どもたちは読書をしたり勉強したり遊んだりしながらのびのびと過ごしています。

このゆんラボ・未来館のサービスの拡充や施設の拡張、または第2のゆんラボ・未来館の設置なども含め、安心安全な子どもの居場所の拡充について、民間ノウハウも取り入れながら柔軟に検討していきます。

POINT 4 学力・人間力の向上（教育）

ゆんラボ・未来館を拠点とし、学校外教育の拡充を図ります。県外の同様の事例では地域の学力が向上したケースも報告されています。

例えば、科学に興味のある子どもたちが継続的に学べるOIST科学クラブの創設を目玉事業として推進します。読谷からノーベル賞受賞者を育てましょう！

ふるさと教育クラスや本を活かした取り組み、民間の企業家の皆さんからの学びなどにも期待が持てます。多様な人々が交流する場としての機能も強化し、子どもたちの人間力の向上も図っていきます。

各学校とゆんラボ・未来館の連携も強化し、より多様な教育の形を支援します。

手厚く幅広い支援や安心できる環境づくりなど
みんなの「できたらいいな」を実現

沖縄初の民営図書館
(読谷村立図書館)
民間ノウハウで充実!



安全安心な子育て環境をもっと増やす!





子ども・子育て孫育て支援

POINT

5

保護者の時間づくり

子育てにおける親子の時間、孫との時間づくりを支援します。

働き方改革推進のため、村独自の認定を付与、勉強会を開催、支援や優遇措置を設けるなどの施策を検討していきます。

「おむつサブスク」による負担減等の他の施策と合わせて、子どもとゆっくり向き合える時間が増えることが期待されます。

POINT

6

おむつサブスク（無償提供）

県外では広く浸透しつつある、いわゆる「おむつサブスク」の導入を推進します。例えば、村内保育施設に子どもが通う場合、保護者はおむつを持参する必要がなくなります。施設・保育士側もおむつの管理の負担が軽減されます。

先進的な事例では、おしりふき、ミルク、着替え、タオル、寝具などもサブスクで施設に届けられ、保護者の負担がさらに大幅に軽減されているケースもあります。

POINT

7

潜在保育士の活躍の場づくり

保育士支援については石嶺村政の流れを引き継ぎ取り組んでいくとともに、新たな取組として、保育士の多様な働き方が受け入れられる環境づくりを推進します。

既存の環境だけでは満たしきれない潜在保育士の働きたいニーズに対し、子育て世代側のニーズとのマッチングを推進します。

保育施設以外に求められる子育て支援の場（託児所等）についても積極的に検討していきます。

POINT

8

妊産婦・産後ママケアの充実

官民連携も模索し、妊産婦さんや産後ママさんが子どもと一緒に安心して過ごせる居場所づくりに取り組みます。

POINT

9

子ども医療の充実（病児・病後児保育）

官民連携も模索し、病児・病後児保育の充実を図ります。同時に、小児科や耳鼻咽喉科の誘致に努めます。

POINT

10

小児発達支援センターの整備

子どもの発達に不安を抱えている親が安心して相談できる場所、適切な支援を提供する場所の整備を目指します。

手厚く幅広い支援や安心できる環境づくりなど みんなの「できたらいいな」を実現

子ども子育て孫育ての充実・・・

今のままでは 財源不足 → 必要なことができない！

既存予算の見直し
(最適化)

村の稼ぐチカラ向上
(新たな財源)

官民連携でコスパ向上
(ゼブラ企業)

民間の稼ぐチカラ向上
(地域還元)

財源創出！

政策を実行！

保護者負担軽減

“おむつサブスク”

保育士負担軽減

病児・病後児ケア

小児発達支援

妊産婦・産後ママケア

安心できる場所をつくる！！

